



日野市表彰式 各分野から22人と1団体が受章

ID 1000576 総務課 (☎042-514-8128)



日野市の市制施行(昭和38年)記念日に当たる11月3日「文化の日」に、市民生活と文化の向上に貢献された方々の功績をたたえ、「日野市表彰式」が行われました。今年には多くの分野から22人の方々と1団体が受章されました。



受章者一覧 (敬称略・順不同)

個人

▶市民自治功労

石原 洋一(多摩平在住)
有賀 信夫(多摩平在住)
滝 容子(日野台在住)
橋本 保子(日野台在住)

▶防災功労

小島 忠夫(大坂上在住)

▶交通安全功労

土方 政江(南平在住)
林 睦子(南平在住)

▶生活文化功労

山下 和美(落川在住)

▶社会福祉功労

清水 渡(大字日野在住)
後藤 秀子(大坂上在住)
戸丸 久恵(南平在住)
坂本 那江(栄町在住)

▶保健衛生功労

石塚 康人(八王子市在住)
久木元 延宏(高幡在住)

▶環境保全功労

小倉 紀雄(平山在住)
小野寺 勲(日野本町在住)

▶社会教育功労

北島 季彦(大坂上在住)
野崎 賀一(日野本町在住)

▶青少年育成功労

片野 静枝(落川在住)

▶農林水産功労

阿川 良一(平山在住)
清水 良夫(大字宮在住)

▶技能功労

関谷 初枝(八王子市在住)

団体

▶文化事業功労

光バンド(旭が丘)

平和祈念日野市戦没者 追悼式を開催

ID 1010208

福祉政策課 (☎042-514-8467)

11月12日に先の大戦で尊い命を亡くされた方々を追悼し、平和を祈念するため、戦没者追悼式を開催しました。



市長の うごき

ID 1016405

市長公室秘書担当 代表 ☎



▶10月後半～11月前半

[10月16日] 日野第三中学校開校50周年記念式典 [18日] 東京都市長会役員会、東京都市長会政策調査特別部会 [22日] 日野市廃棄物減量等推進審議会 [23日] 平山中学校開校40周年記念式典 [24日] 東京ヴェルディ日野市ホームタウンデー [26日] 日野市老人クラブ連合会福祉大会、東京市町村総合事務組合議会定例会、東京都市長会・部会合同研修会 [29日] 日野・多摩・稲城3市合同再犯防止シンポジウム [30日] 滝合小学校創立50周年記念式典 [11月2日] 知事と区市町村長との意見交換 [3日] 日野市表彰式 [4日] 南多摩斎場組合(正副管理者会議、議会定例会) [6日] 日野第三小学校開校70周年記念式典 [8日] 都市計画審議会 [11日] 浅川清流環境組合(正副管理者会議、議会定例会) [12日] 平和祈念日野市戦没者追悼式、東京都十一市競輪事業組合(理事会、議会定例会)、東京都四市競艇事業組合(理事会、議会定例会) [13日] 日野市消防団秋の火災予防運動出発式 [14日] 平和派遣事業報告会

国保データヘルス 令和2年度微量アルブミン尿検査 実施状況などについて

ID 1013126 保険年金課 (☎042-514-8276)



この検査は、腎臓の機能が低下する前兆として尿から検出される微量な「アルブミン」というタンパク質を測定する尿の検査です。糖尿病性腎症重症化予防の川上対策として実施しており、主に自覚症状のない方を対象とし、糖尿病性腎症の早期発見・早期治療により進行を抑えることを目的としています。対象者は、国民健康保険被保険者で前年度の特定健診の結果からHbA1cが6%以上、かつ尿タンパクが出ていない(ー)またはわずかに出ている(±)方です。

令和2年度の微量アルブミン尿検査結果から

検査受診者1,495人のうち、微量アルブミン尿が陽性の方は366人(24.4%)で、このうち61人(受診者の4.0%、陽性者の16.6%)の方を早期治療につなげることができました。

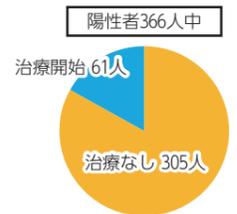
令和元年度の本検査後治療開始者のその後の特定健診結果

本検査により令和元年度に治療開始となり治療を継続している方で、令和2年度の特定健診の結果が追跡できる方(29人)を分析しました。分析対象項目は、「収縮期血圧」「拡張期血圧」「血清クレアチニン」「空腹時血糖」「HbA1c」「尿タンパク」で、治療開始当時の令和元年度の特定健診の数値と翌年の令和2年度の健診数値を「正常値」「保健指導判定値」「受診勧奨判定値」の区分で相対的に比較しました。

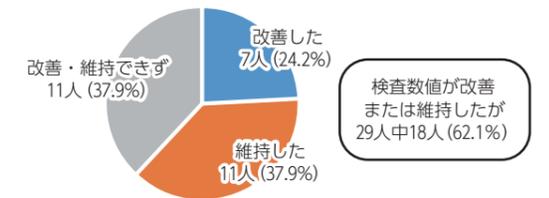
その結果、治療開始時と比較して特定健診の数値が「改善した」が7人(24.2%)、健診数値を「維持した」が11人(37.9%)、健診数値が「改善・維持できなかった」が11人(37.9%)でした。以上のことから、改善または維持した方が29人中18人(62.1%)おり、多数の方の糖尿病性腎症の進行を抑えられているといえます。

本検査の対象となり受診券が届きましたら、ぜひ受診してください。

令和2年度微量アルブミン尿検査陽性者に占める治療開始者数



令和元年度微量アルブミン尿検査での治療開始者の令和2年度の健診結果の傾向



令和2年度微量アルブミン尿検査 受診者数

対象者	受診者	未受診者	受診率
2,486人	1,495人	991人	60.1%

COP26は気候危機を克服できるか

市長 大坪 冬彦 コラム

ID 1018486



新型コロナウイルス感染症に伴う緊急事態宣言が解除され、新規感染者が劇的に減少していますが、やはり第6波が気になります。一方で衆議院議員選挙が終わり、新しい政権の下で第6波への備えやコロナ禍からの回復、アフターコロナに向けた社会経済政策が進められようとしています。

そのアフターコロナの社会経済政策に関連し、日本と世界の今後大きく影響する国連気候変動枠組条約第26回締約国会議(COP26)が10月31日から11月13日まで英国グラスゴーで開催されました。この会議では、2015年のCOP21パリ協定で採択された、深刻な気候危機を回避するために世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて1.5度に抑えるという目標達成のための各国の取り組みについて、検証と見直しを試みられました。

このCOP26に先立ち、国連環境計画(UNEP)は、各国が掲げる温室効果ガス削減目標を達成しても、今世紀末の世界平均気温は産業革命前から2.7度上昇するという悲観的な報告をしました。加えて、世界気象機関(WMO)は、2020年の大気中二酸化炭素の世界平均濃度が

2019年に記録した観測史上最高値を更新したと発表。新型コロナウイルス感染症のパンデミックによる世界の社会経済活動停滞により、2020年の化石燃料由来のCO2排出量は前年比5.6%減少したにもかかわらずです。

残念ながらCOP26においては、参加各国が温室効果ガス削減目標の上積みを図ることはできませんでした。COP26で問われている気候危機は、社会・経済・環境のすべての在り方をこれまでと変えていかなければ克服できません。まさに持続可能な開発目標SDGsへの本気度が問われています。日本政府は2050年までに温室効果ガス排出量実質ゼロを宣言しました。脱炭素も難しい状況の中でのこの目標達成はかなりの困難を伴います。

われわれ自治体に何ができるのでしょうか。1,700を超える国内の自治体すべてが、この目標を達成できれば、日本全体が脱炭素を実現することになります。ことはそれほど単純ではありませんが、日野市も一自治体として気候危機に対して真剣に取り組みCO2排出量実質ゼロを目指さねばなりません。